別子往還道を訪ねて

第十一回　惣開・星越

惣開・星越地区は、かつて惣開製錬所（明治21年操業開始）があった場所として、また、新居浜港線や下部鉄道の主要な駅があり、大正末には新居浜選鉱場が立地するなど、銅鉱石の積み出し場所として、口屋に代わる別子往還道の拠点となりました。

まずは工場前。住友化学愛媛工場入口から北東側に洒落た洋風建築の香りがする建物があります。旧住友銀行新居浜支店です。現在は住友化学愛媛工場歴史資料館として煙害問題を解決するための住友肥料製造所から始まった住友化学の歴史を知ることができます。建物のすぐ横には明治23年、別子開坑200年の喜びを広瀬宰平が執筆した惣開の碑（「總開之記」碑）が建立されています。この碑文の書は勝海舟、山岡鉄舟と共に幕末の三舟とされる高橋泥舟の筆によるものです。

住友化学愛媛工場歴史資料館
（左手前が惣開の碑）

東へ行くと別子銅山記念図書館があります。ここはかつて住友グループの接待館として昭和12年に建設された泉寿亭があった場所で、建物の一部はマイントピア別子へ移築保存されています。また、星越山北側には同じく昭和12年完成の住友倶楽部があり、迎賓館的な利用をされ、また、住友社員、家族の福利厚生施設でした。現在は住友金属鉱山㈱人材開発センター星越館となっています。

星越山の南面には新居浜選鉱場があり、大正から平成に至るまで銅鉱石の選鉱の工程を行っていました。昨年来、老朽化のため建物は撤去され、広大な石積やインクラインが面影を残すものとなりました。この敷地への入口付近には下部鉄道で唯一残っている駅舎、星越駅があります。駅舎の南側には国内最後の社宅群と言われている山田社宅が広がっており、イオンモールやリーガロイヤルホテルがある場所にかつて立ち並んでいた前田社宅とともに住友社員のための広大な社宅群となっていました。星越駅は勤務地である端出場へ鉄道で向かう山田社宅に住む、多くの通勤族が利用していました。昭和４年には鉱山鉄道が一般鉄道となり、昭和17年には、国鉄との連絡線が竣工されました。住友社員以外の方にも利用された方がいらっしゃるのではないでしょうか。

※新居浜選鉱場跡には立ち入りできません。また、山田社宅には住民の方がいらっしゃいますので訪れる際は写真撮影を含み、プライバシーに注意してください。

広告欄

広告欄

広告掲載については、ソネ　デザインスタジオ（☎ 0897 - 33 - 5721）へお問い合わせください。